
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

坂小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.07.12 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.11.24 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.07.13 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.10.11 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.16 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.20 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.07.23 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.23 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
テーマ「①地域特性を考慮した具体的な災害対策を考えよう & 大人の学びの機会を作りたい」（P7 掲載）
「②親世代に向けた坂地区の魅力作りや魅力アピール方法について考えよう」（P8 掲載）

◎：市の意見・回答
⇒：課題解決に向けた取り組み事例

(※担い手略称 自：自治(町)内会、保：保健委員、民：民生委員、消：消防団、老：老人会、環推：環境美化推進員)

	課題	担い手
防災訓練	<p>①訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●訓練のマンネリ化が課題。 ●配布された自主防災チェックリストは住民全員が見るべき。「こんな事態が起こるから、対策をしなければならない」と意識できる。 ◎防災訓練時に保健委員の役割があると活動の幅が広がる。 ◆保健委員を中心とした、担架・三角巾等を使用した救護訓練が今後の課題。(笹原) ●公民館に全世帯が集まり、問題点の洗い出しや人数確認などを行なう訓練も必要。(山中・元山中) ◇地域訓練には15軒全戸参加。避難所訓練の実施を検討中。(谷崎) ◎倒壊した建物からの救出はチェーンソーや車のジャッキが有効。救出訓練をやってみてほしい。 ⇒◇毎月消火訓練実施。住民の意識は高い。(山中) ⇒◆笛、黄色いハンカチ配布。安否確認後ハンカチ掲示を指示。(三ツ谷) □訓練では「黄色いハンカチ」を使った訓練と、救急医療品をどのように使うか、使える人がどれくらいいるのかなどを確認・経験してみたい。(三ツ谷) ⇒◇訓練意義を「生き残る訓練」とし、救出救助訓練を実施。(箱根坂) ◆来年以降、救急・AEDの操作方法、避難所への搬送訓練、社会保険病院へのルートを含めた怪我人運搬訓練を実施したい。(箱根坂) ●震災時、消防団員は勤めに出ている可能性がある。自分達で可搬ポンプを扱えるよう訓練してほしい。(消防団) ⇒●消火栓が多い地域では消火栓からの消火が簡単で有効。(三ツ谷) 	<p>校区全体</p> <p>保</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p>

	課題	担い手
②要援護者の支援	<p>◆□要援護者リストは民生委員が苦勞して作成している。ぜひ活用してほしい。</p> <p>□自立歩行困難な方を救出するには、まず個人情報把握する必要がある。</p> <p>□自治会役員、防災役員と民生委員と一緒に情報を共有することが大事。災害時は、その情報を活用して、自治会主体で災害弱者を救出してほしい。</p> <p>□まずは自分の家の近所、両隣の高齢者の様子を見て頂けるといい。</p> <p>□自治会や民生委員の方が、地区にどういった方がいるのか集めた情報を、その後、どのように皆に知ってもらおうかが課題。</p> <p>□坂地区は「隣近所の連携が強い」という特徴がある。それは強みになる。</p> <p>⇒◆要援護者に笛を配布し、災害時に吹くよう指導した。(山中)</p>	自・民
③防災体制の整備	<p>⇒◇市山公民館を避難所として使えるよう備蓄開始。(市山新田)</p> <p>◆各組で救急医療品の備蓄や、保健委員の役割を考える必要がある。</p> <p>□災害時には、隣近所で声をあげて、お互いにどんな状態や問題があるか分かっ てもらおうことが大切だと思う。</p> <p>□緊急時の対応を家庭で教えられるよう、大人達が学び合える場があるといい。 →【■①-1 テーマ別会議(P7)に発展】</p> <p>●奥山地区の避難先を検討中。どう調整するか話し合いたい。(玉沢)</p> <p>●坂小まで遠い。途中で休憩・避難できないか市と相談したい。(山中)</p> <p>○△消防団員の高齢化が問題。消防団の訓練を緩和すれば入りやすくなり、団員の確保につながるのではないかな。</p>	自・保 自 自・市 消
④小・中学生の訓練の機会を増やす	<p>□中学生には災害時や火災の火事場などで活躍できるよう、もう少し本格的な訓練(体験)を日頃からさせてあげたい。</p> <p>□地域の防災訓練以外で、日常的に中学生が防災についてのスキルが学べる機会、トレーニングできるような機会を設けてほしい。</p> <p>□大人に交じって子どもが活躍する訓練経験も大事。「あなたたちがいてくれて助かるよ」と言えば、子どもは楽しんでやる。</p> <p>□小学生、中学生が消防団の日々の訓練に参加するなど、消防団活動を通じて、災害時の対策を知っていくといいのではないかな。</p> <p>□消防団の訓練に小中学生が参加する試みはいいこと。実際にやらなくても見ることによって勉強になると思う。中学生が来るならば、それなりの対応をする。</p> <p>□消防団の新入団員を募るのは大変なので、中学生の頃から、目に見える形で消防団の活動を教えていくのも必要なこと。将来、その子達が大人になって、地域を守る消防団員になるきっかけになるのではないかな。</p>	中学校 消防団 小学生 中学生

	課題	担い手
⑤水・食糧の 備蓄	<ul style="list-style-type: none"> ●食糧の備蓄はあるが、水と電気が問題。(元山中) ◎食糧は3日分用意してほしい。何より水の備蓄が重要。 ⇒◆災害時は、配管が破損しない限り簡易水道（ポンプを使わず落差でタンクに水がたまる）で対応可能。(山中) ⇒◇飲用水ペットボトル 100 ケース購入、備蓄。(三ツ谷) ◆簡易水道や各地区にタンクが多数あるが、古いので水道管破損が心配。山の水も考えている。(三ツ谷) ◇一番の心配は食糧と水。水を購入したい。浄水器など高額なものについては市の補助をお願いしたい。(笹原) ◆備蓄品の情報を共有した。アルファ米、水ペットボトル、乾パンの備蓄があるが、一日もつかわらない。(笹原) ⇒◆水タンク 4 箇所設置。山の水は簡易水道として使用。(笹原) ⇒◆事前に最低 3 日分の備蓄例を示したチラシを各家庭へ配布。(笹原) 	<p>校区全体</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>市</p> <p>自</p>
⑥幼・小学校 の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ⇒◆安全な屋内で子ども達を待機させ、引き渡し訓練実施。(坂小) ⇒◆安全対応マニュアルを作成し保護者に配布。(坂幼稚園) ●車を利用しないなど、実際の災害を想定した訓練を行いたい。(坂幼稚園) 	<p>幼</p>
⑦避難所(小 学校)の体 制整備	<ul style="list-style-type: none"> ●東北の震災後の生活で実際に困ったことを知りたい。 ●子どもを預かる状況も予想される。学校独自の対策をたて食料等3日分の物資を用意していきたい。(坂小) ◆備蓄毛布があるので、親が迎えに来られない子は幼稚園と合同で、校舎の一部屋を使用することも検討したい。 ◎多くの方が避難する避難所生活は、小さい子どもを抱える方には厳しい。幼稚園も避難場所として検討してほしい。 ◇医療品、冬場の毛布不足が懸念。(坂小) ⇒◇リーダー研修会で体育館避難を経験。 ◇体育館避難は暑さが厳しく大変だった。暑さ対策も重要。 ◇避難生活は、出来れば町内公民館等を利用したい。(元山中) ⇒◇避難所運営会議を実施。災害時、水(防火水槽)、食糧(プロパンガス・野菜)、トイレは対応可能なことを確認した。 ◇避難所運営について色々勉強・検討しなければいけない。(三ツ谷) ◆国道 1 号線上に取り残された車両からの避難者や、ヘリコプター発着場である坂小運動場の運用等について、避難所運営会議で話し合いたい。 □色々なことをシミュレーションして考えると、坂地区の弱点が見えてくる。地域の特性を踏まえ想像力を働かせ、具体的に必要な対策を積み上げていきたい。 →【■①-2 テーマ別会議に発展(P7)】 	<p>自</p> <p>小</p> <p>小・幼</p> <p>幼</p> <p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自・小</p>

	課題	担い手
	<p>⑧災害時の情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ●◇情報収集と情報発信をどのようにするか、具体的、実践的に知りたい。実際に地区と行政で防災訓練を行うことも必要ではないか。 ●防災無線・アマチュア無線・消防無線などの使用を考えていきたい。 ●消防団員による行政無線のバックアップができるのでは。 ◇各地区長と携帯電話等で連絡しあい、情報収集できるようにしたい。 ◆家族間で災害時の連絡方法を話し合うよう周知していきたい。 □災害時、各自がどう動くか考えるといいのでは。それが自分の身の安全にもつながるし、「171」の使い方を覚えることで、災害時の対応ができる。自分なりに考えて、やってみることが大事。 □訓練をしてどこが安全か、正しい情報をうまく伝えられるようにする必要がある。訓練はマンネリ化しているので、情報伝達等を考えながらやっていきたい。 ◎保護者が防災情報を知り、話し合うことが、防災意識の向上につながる。171の伝言ダイヤルを確認しておいて欲しい。 ◎水害の場合、該当地区へ避難準備の連絡→地区で避難体制整備→避難勧告、避難指示と進む。山・崖崩れの場合、避難できる体制をつくっておき、危険だと感じたら避難する。確認しておいてほしい。 ◎雪害に関して、普段雪が降る地域ではないので除雪車はない。幹線道路は国交省と県と市で対応するが、町内の除雪は各町内でやってもらうしかないことを理解してほしい。 	<p>市・自</p> <p>消・市 自 校区全体</p> <p>自</p>
地域の連携	<p>①地域のきずなづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○きずなづくりは普段の生活が大事。祭り、草刈などの活動を継続し、地域の運動会、文化祭などへの参加につなげ、校区の交流へと広げていきたい。(笹原)⇒□自治会で役員の親睦を深めるため、日帰り旅行を計画。日頃出て来ない方が参加した。 △行事を土日に分散するなど、自治会長が出席する回数が多い状況を緩和する方策を考えてもらいたい。 ○子どもがいない世帯は運動会にあまり出てくれないので、どうやって参加させていくかが課題。(体育振興会) ○運動会と防災訓練を合わせて開催してはどうか。(スポーツ推進員) □外に出ないと足腰が弱り、弱ると出られなくなってしまう。運動会の種目に関して、その辺を考えなくてはいけないと思うが、まだ結論は出ていない。 □高齢の方をいかにして外に出させるかが、山中の問題になっている。 □各家に行ってお年寄りの様子を尋ねるより、日頃の自然体を見ているとよく分かる。そういう意味でも、地域行事を大事にしていくといい。 □できれば「山中城祭り」を復活させてほしい。 ⇒□山中城祭りの供養祭存続。供養祭後、そば打ち等、新行事を始めた。 □行事を見直すこと、何のために行事をするのかを検討することも大事。 □「地域の行事を盛り上げること」が「救出・救助」につながる。地域行事には、「高齢者の状態の確認」と、「外に出てくるきっかけ作り」という位置付けがある。地域の特徴を長所として活用して頂きたい。 	<p>自</p> <p>体育振興会</p> <p>自</p> <p>市</p>

	課題	担い手
②挨拶・声かけの促進	<p>○坂小は児童数が少ないので、全学年が友達になるなど、授業の中でもきずなをつくっていききたい。</p> <p>○震災の影響で近所のつながりが重要視されている。高齢者から子ども達に人付き合いについて教えていきたい。(三ツ谷寿楽会)</p> <p>○きずなづくりの基本は挨拶。子どもに挨拶を教え、コミュニケーションが取れるよう育てたい。</p> <p>○子ども達が悪さをしないよう、声をかけてほしい。</p>	<p>小</p> <p>老</p> <p>校区全体</p>
③坂幼稚園・坂地区のPR	<p>□園児が少なくなっている。子どもたちを大切に思ってくれている地域の方々がいるので、もっと子どもが増えてほしいと思う。</p> <p>□地域から「子どもを大事にできる町」だと発信してもいいのかもしれない。坂幼稚園のPRにもなる。</p> <p>→【■②テーマ別会議(P8)に発展】</p> <p>□より多くの高齢の方が幼稚園や小学校にどンドン入り、それぞれの得意分野を活かし、色々なことを子どもたちに教えて頂けたらと思う。そういったつながりがあれば、地域にこんな方がいるという気付きになる。</p> <p>□地域でもお手伝いして頂いて、もっと坂小・坂幼稚園の特色を出せるというのではないか。例えば、児童クラブなどで長い時間子どもの面倒を見てもらえれば、働いている母親にとっても助かる。坂地区の良さをもう少しPRして、できれば下から来てもらえるといい。</p> <p>□坂地区では「子どもは地域の宝」だと多くの方が思っている。この形が理想かもしれない。こういった形を坂地区だけではなくて、坂地区の皆さんの力を借りながら、錦田中学校区として、広げていけたらいい。</p>	<p>校区全体</p> <p>幼・小・自</p>
④環境美化	<p>⇒○年2回草刈りを実施。普段接点のない住人の交流の場。(笹原)</p> <p>○山中城の犬のフン害にも対応していきたい。看板を立てるなどの対策を考えている。(環境美化推進委員)</p> <p>○県道が整備されたことで、夜間、通行者がゴミをポイ捨てしていく。対策が必要。</p> <p>▲ごみが落ちていたら拾う姿を大人が見せる、そういう意識を持って行動することが、きれいな街をつくる第一歩。</p> <p>▲林道で不法投棄が多い。行政でもっとしっかり管理してもらいたい。</p>	<p>自</p> <p>環推</p> <p>市</p> <p>市</p>

■H26. 10. 23 テーマ①「**地域特性を考慮した具体的な災害対策を考えよう & 大人の学びの機会を作りたい!**」

●坂地区の具体的な災害対策に向けて、皆さんの意見を出し合いました。

(テーマ①班:参加人数 14人)

突発的な災害への対応が必要...

いろいろな想定が考えられる。

- ・災害発生時、防災役員がいない場合がある。
- ・**個人・家族でできる事、できない事がある。**
⇒個人差があり複雑。
⇒まずは**大人が防災を学び**、家庭で防災の話をできるようにする。
- ⇒**個人でできない事を地域(組織)が行う。**
- ・**地域・組織でできる事・できない事がある。**
⇒地域もどこまでできるのか心配。

地域の特性としては「**孤立化**」する。

- ⇒**最低限一週間**を...どのように乗り切るか。何を備えるか。
- ⇒**自分の身は自分で守る。**

皆の中で『**個人・家族でできる事、できない事**』と『**地域・組織でできる事、できない事**』が整理されれば、具体的な対策が分かり、**地域でやるべき事&目指すべき災害対策の姿**がわかってくる!!



アクション

「**自分の身は自分で守る!**」

その為に「**個人・家族でできる事**」は?

★**家の中の整理整頓**

・家のどこに何がどれくらいあるのか確認しておく。

★**家族内の避難場所を決める**

- ・自分が何をすべきか行動シミュレーションが必要。
- ・非常時はあわてていて、何をしたらいいかわからなくなる。各家庭にあった避難対策をつくる。

★**家族の連絡方法の確認**

・安否確認方法を徹底する。

★**備蓄品チェック**

- ・各家庭に災害時に必要な物は準備できているか、問いかけ確認(準備を確実にする為にチェックシート)
- ・一週間の備蓄品は必ず用意。

『**地域・組織でできる事**』は?

★**普段から団体と関わりを持つ**

- ・地区の連絡網はあるが、緊急時それが実際に通用するのか確認をする。
- ・**地域包括支援センター**
(サロン開催、出前講座/早期要支援者の発見
⇒要支援者情報を出してほしい)

組織が
バ ック ア ッ プ

■「**大人が学ぶ機会**」何を学ぶべきか?

- ・ケガや寒さ対策など必要な知識を身につけてもらう(毛布がガウンになるなど)。専門家の話を聞く機会を設けてほしい。
- ・**災害時の行動**についての知識。地震の時、家の中だったらこういう所が安全など…。各家庭によって違うので、家庭内での話し合いも大切。
- ・各家にあった避難行動を事前に勉強してほしい。
- ・研修会を行う。地域リーダーを作る。
- ・災害伝言ダイヤル 171
- ・一週間頑張る方法
- ・土砂災害警戒区域の人は各家庭で迅速に対応できるように勉強し、家族と話し合ってください。消防団がすぐに対応できるとは限らない。

■**防災について考えてもらう為に、個人にどのように働きかけるか?**



- ★**消防団の定例の「火の用心」パトロール**の声を聞くと、防災の事を思い出してもらえるような工夫をする。「火の用心」のバリエーションを増やすなど。
- ★『**自分の身は自分で守る**』ための**行動チェックシート**を作って、周知する。
⇒三島市のマニュアル・チェックリストはあるが徹底されていない。これを参考に地域にあった内容を確認し、坂地域独自のチェックシートを作る。
- ★自治会報等の回覧で、家庭で話し合った事を回収して、地域の防災に役立たせる。防災訓練等で再確認してもらう。
- ★台風などの災害発生後の危機意識の高い時に広報すると、皆考えてくれるので効果的。

■H26. 10. 23 テーマ②「親世代に向けた坂地区の魅力づくりや魅力アピール方法について考えよう！」

(テーマ②班：参加人数 10名)

●坂地区や幼稚園・小学校の魅力やそのアピール方法について皆で話し合いました。

子どもは、最初の友だち作りが重要！⇒まず、幼稚園に呼び込む！！

★坂地区の魅力はどんなこと？

きずなが強い・人が良い

- ・小規模な地域で人と人とのきずなが強い
- ・小さい頃からの知り合いが多い
- ・互いに誰でも顔見知り
- ・みんな知り合い（助けてくれる）
- ・住民の連携が強い
- ・近所づきあいがしやすい
- ・どこの子どもかわかる（声を掛けることができる）
- ・地域の人々が皆仲がいい
- ・隣近所の関係が良い
- ・ご近所もアットホーム
- ・地域の方の声かけ、見守りがある
- ・地域の人があたたかい

自然環境が良い

- ・自然環境に恵まれている
- ・豊かな自然
- ・空気がおいしい
- ・最高な空気・風景（富士山）
- ・遊歩道！
- ・富士山や駿河湾等の眺めが良い
- ・箱根・伊豆に近い
- ・山中城址がある
- ・自然がいっぱいで、自然と共に子どもが過ごしている
- ・生き物体験

自然環境が人を育てる

坂幼稚園

- ・小人数⇒子ども 1人1人の意見が反映しやすい
- ・やろうと思えば何でもできる
- ・小学校に協力的

坂小学校

- ・坂小は色々な体験ができ、とても良いところ
- ・放課後児童クラブ⇒幼稚園児～6年生まで（7:30～18:00）値段も安い！

坂小が連携の中心

スポーツ

- 《坂ソフトボール》
- ・35年前父兄と活動開始
 - ・とてもいい指導を実施
 - ・心を育てる
 - ・仲間づくり

イベント

- ・夏の花火、大文字焼き（来年ラスト）

野菜がおいしい

- ・箱根西麓野菜
- ・たくさんの野菜を食べられる
- ・野菜がおいしい
- ・栽培の様子が見られる

- ★坂幼稚園の困りごと
- ・園児数の減少
 - ・2年保育がネック（途中から転園は難しい）
 - ・3年保育は難しい状況

親世代を坂地区に呼ぶ為にまず幼稚園からPRしよう

■幼稚園をPR

- ・子育て支援事業を活用
- ・坂幼稚園 DE 遊ぼう会（0歳からのお誘い）⇒小さい時から幼稚園へ遊びに来てもらう
- ・坂幼稚園体験ツアーを保育園児に勧める
- ・体験入園・体験入学
- ・小学校預かり保育をもっとPR
- ・坂小・坂幼稚園をセットで

■アピール方法（情報発信）

- ・地域の人に回覧板で
- ・市内全域に情報発信していく
- ・イベントの報道依頼
- ・マスコミを活用
- ・アピールの機会を多く持つ
- ・口コミ

遊歩道のCM
児童クラブのCMなど

■おいしい野菜を活用

- ・貸し農園（親切な指導付き）
- ・野菜収穫体験
- ・いも掘りなど農業体験
- ・「安い」もキーワード

■自然を活かした体験イベント

- ・夏休み、坂自然体験塾を行なう
- ・田舎の学校へ行こう体験
- ・長期のサマーキャンプ
- ・空き家・公民館などを利用し長期の住民体験！！
- ・子どもの森などで遠足・キャンプ
- ・「子どもに良い環境」を強くPR

地元だと当たり前で良さがわからない
他所からの視点も大事

坂地区は団結力がある。
皆で地区の魅力をアピールしていこう！

補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼・小
元山中自治会 笹原自治会 三ツ谷自治会 山中町内会 市山新田自治会 台崎町内会 箱根坂自治会 玉沢町内会（※平成 24 年度参加 /現在は錦田小学校区）	環境美化推進委員会 保健委員会 民生委員児童委員協議会 消防団第 10 分団 消防団第 13 分団 消防団第 14 分団 J A 三島函南女性部 地域包括支援センター	坂幼稚園 坂幼稚園 P T A 坂小学校 坂小学校 P T A 錦田中学校 P T A 学校支援地域本部
老人クラブ	スポーツ関係	子ども会
三ツ谷寿楽会 笹原天寿会	スポーツ推進委員会 坂小学校区体育振興会 体育指導員会 坂少年ソフトボールクラブ	三ツ谷子ども会 市の山子ども会 市山子ども会？

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.07.12 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.11.24 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.07.13 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.10.11 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.07.16 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.20 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.07.23 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.23 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
テーマ「①地域特性を考慮した具体的な災害対策を考えよう & 大人の学びの機会を作りたい」（P7 掲載）
「②親世代に向けた坂地区の魅力作りや魅力アピール方法について考えよう」（P8 掲載）

◎：市の意見・回答

（※担い手略称 体振会：体育振興会、環美推員：環境美化推進員）

	現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練				
	①訓練内容			
	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練は実施していない。（玉沢） ●◇毎月1回消火訓練実施。年1回、全体の防災訓練を実施。高齢者でも毎月訓練を行うことで、操作を忘れない。（山中） ●実践的な訓練をするので住民の意識は高い。高齢の女性も参加。全員に防災を意識してもらいたく訓練を始めた。（山中） ◆8月の防災訓練は毎月の訓練の発表会のようなもの。各組が時間を競い真剣に消火する。（山中） ◆訓練では特に保健委員に役割はない。もっと意識を高めていかなければならない。（保健委員） ◆笛・黄色いハンカチを配布。安全なことが確認されたらハンカチを掲げるよう指導している。（三ツ谷） □今まではただ坂公民館に集まって訓練していたが、今年は初めて「黄色いハンカチ」を用意した。（三ツ谷） ●1次避難した後、全世帯の家族全員が公民館にそろって訓練は未実施。（山中） ●人数が多くないので公民館で安否確認を行う。（元山中） ◇地域での防災訓練は15軒全戸参加。（谷崎） ◆担架等は用意しているが、建物からの救出訓練等は実施していない。（山中） ◇防災訓練の意義は「生き残る訓練」。半壊・全壊建物からの救出機材（チェーンブロックや低床ジャッキ）を揃え、救出訓練、救急措置の訓練、救急要請体制（車両通行不可時はバイク隊結成）を制定。（箱根坂） 	<ul style="list-style-type: none"> ●訓練のマンネリ化が課題。（市山新田） ●配布された自主防災チェックリストは住民全員が見るべき。意識向上につながる。「こんな事態が起こるから、対策をしなければならない」と意識できる。 ◎防災訓練時に保健委員の役割があると活動の幅が広がる。 ◆担架・三角巾等を使用した救護訓練が今後の課題。その際保健委員と連携したい。（笹原） □「黄色いハンカチ」を使った訓練と、救急医療品をどのように使うか、使える人がどれくらいいるのかなどを確認・経験してみたい。 ●問題点把握の為、公民館に全世帯が集まる訓練も必要。 ●公民館での人数確認が課題。 ◇避難所訓練を行ったらどうか検討中。 ◎倒壊した建物からの救出はチェーンソーや車のジャッキが有効。救出訓練をやってみてほしい。 ◆来年以降は、救急・AEDの操作方法・避難所への搬送訓練、社会保険病院へのルートを含めた怪我人運搬訓練を実施したい。（箱根坂） 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会 校区全体 保健委員 自治会 自治会 自治会 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒◇毎月消火訓練実施。住民の意識は高い。 ⇒◆笛・黄色いハンカチを配布、指導。 ⇒◇訓練意義を「生き残る訓練」とし、救出救助訓練実施。

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>●災害時に実際にポンプを使用するのは難しい。(元山中)</p> <p>●月1回、各組で消火栓と可搬ポンプの訓練実施。可搬ポンプは普段から練習しないと使えないが、消火栓は簡単、また水圧も強いので十分消火可能。三ツ谷には消火栓が多いので、非常に有効な訓練。(三ツ谷)</p>	<p>●震災時、消防団員は勤めに出ている可能性がある。自分達で可搬小型ポンプを扱えるよう訓練してほしい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒●可搬ポンプよりも消火栓からの消火が簡単で有効。</p>
②要援護者の支援			
<p>◇□民生委員は災害弱者の方を調査し、要援護者リストを作成している。</p> <p>◆要援護者に笛を配布し、災害時に吹くよう指導した。(山中)</p> <p>□高齢者の自立歩行困難な方などをどう風にして救出するのか。</p> <p>□個人情報保護で要援護者の情報を公表しないようになっているが、要援護者は自分から「援護してください」と手を挙げた方。一般の人に公開しても問題ない。</p> <p>□多呂在住。組長になった時、組28軒全部回って、「家族カード」を作成した。個人情報を出さない家もあったが、ほとんどの家は「災害時の連絡先」や、「老人だけなので、家の中まで様子を見に来てほしい」、「あまり動けないから黄色いハンカチも外に掲げられない」など、情報を伝えてくれた。代々の組長が家族カードを持っているし、コピーも町の方で公民館に保管していた。</p> <p>□坂小に校長として赴任して2年目。他地区から来て思うことは、坂地区の強みは地域の方の顔が見えること。高齢者の把握など、他地区に比べて素晴らしい。</p> <p>◆現在要援護者の該当者はいない。これから動けない方が出てきた場合の対応(担架等で避難所に運搬)は申し合わせてある。(箱根坂)</p> <p>◆運動会がないので、防災訓練が多くの高齢者に身体を動かしてもらおう機会になる。(箱根坂)</p>	<p>◆□要援護者リストは民生委員が苦労して作成している。個人の利益になることは個人情報を開示しても問題にならないという見解もあるので、ぜひ活用してほしい。(民生委員)</p> <p>□もう少し要援護者リストの扱いをフリーにしてほしい。</p> <p>□自立歩行困難な方を救出するには、まず個人情報を出してもらい、把握する必要がある。</p> <p>□自治会役員、防災役員と民生委員と一緒に情報を共有することが大事。災害時は、その情報を活用して、自治会主体で災害弱者を救出してほしい。</p> <p>□まずは自分の住んでいる家の近所、両隣の高齢者の様子を見て頂けるといい。</p> <p>□自治会や民生委員の方が、地区にどういった方がいるのかと集めた情報を、その後、どのように皆に知ってもらうかが課題だと思う。</p> <p>□坂地区は「隣近所の連携が強い」という特徴があるので、それを強みにしていけばいいと思う。</p>	<p>自治会 民生委員</p> <p>自治会 防災委員 民生委員</p>	<p>⇒◆要援護者に笛を配布。</p>
③防災体制の整備			
<p>◇圧死しないため家具の固定を全戸で実施。(箱根坂)</p> <p>◇初期消火のため市の補助金を利用し、消火器を全戸設置。(箱根坂)</p> <p>◇防災倉庫を整理した。公民館を避難所として使えるよう非常食、毛布、浄水器等揃え始めた。(市山新田)</p> <p>◆冬に災害が発生した場合、余震などで建物に入れない場合も有り得る。暖をどうやってとったらいいか。</p>	<p>◇今年も少しずつ揃えていく。</p> <p>◎阪神淡路大震災時は外で焚火をしていた。そういう状況が起こり得る。</p>	<p>自治会</p>	<p>⇒◇市山公民館を避難所として使用するため備蓄開始。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◆市内に救急車は4台。怪我人の救助・救護を、病院を頼るのではなくて自分達で実施しなければならない。</p> <p>●AED は、実際に必要なときすぐに持ち出させてもらえるのか。</p> <p>●災害発生時、一番大事なことは自助。自分が助からないと他を助けることは出来ない。個人的に大きな発電機を2台用意した。</p> <p>◇坂地区は非常にきずなが強い。それを基礎に取組を進めれば、大災害でも何とかかなと思う。</p> <p>□災害時は、どうしたらいいか迷うようなことが多く出てくると思う。</p> <p>□災害はいつ起きるかわからない。家族でいる場合、そうでない場合などを想定した話し合いを、家庭の中でしてもらえるといいと思う。</p>	<p>◆救急医療品を組ごとに必ず置いておく必要がある。</p> <p>◎包帯、三角巾、消毒薬など揃え、保健委員や女性陣と救護について話し合っほしい。</p> <p>◎AED は緊急時には借りられる。市も情報発信していきたい。</p> <p>□隣近所で声をあげて、お互いにどんな状態や問題があるか分かってもらうことが大切だと思う。</p> <p>□本当に何か起きた際には、自分で自分の命を守るよう、「こういう時にはこうしようね」ということを家庭で教えたい。家庭で教えられるよう、大人達が学び合える場があるといいと思う。</p>	<p>自治会</p> <p>保健委員</p> <p>市</p>	
<p>●坂小が近いので避難場所を確保していただいたが、玉沢町の本来の避難先は錦田公園。(玉沢)</p> <p>●山中から坂小まで6kmと距離がある。(山中)</p> <p>●中学生は錦田中へ避難する。家族と別の場所に避難する事で不都合が生じる可能性がある。(玉沢)</p>	<p>●奥山地区の避難先を検討中。どう調整していくか話し合っほしい。</p> <p>●途中で休憩・避難できないか、行政と相談したい。</p>	<p>自治会</p> <p>市</p>	
<p>◇消防団の人数は少ないが、地域と密に連携をとり防災訓練、地域の人を守る練習などを実施。若者不在を地区の皆がカバーしている。</p> <p>△22年間消防団員をやったが、その中で一番負担に感じたのは訓練。全国大会に向けての訓練は、朝5時からやっていた。実際の出勤は年に数回のみ。</p>	<p>○消防団員の高齢化が問題。(台崎)</p> <p>△消防団の訓練を緩和できれば、入りやすくなり、団員の確保につながるのではないかな。</p>	<p>消防団</p>	
④小・中学生の訓練の機会を増やす			
<p>□中学生は体力的にも大人と変わらない。</p> <p>□町内会の防災訓練はどうしても土日になる。中学生は部活動の関係で、防災訓練の参加が困難。</p> <p>□現在 22歳の息子が中学生だった時は、坂地区の防災訓練に参加させた。大人が指示を出して、テント設営などの単純な力仕事をやらせた。部活など忙しいと思うが、前々から計画して「この日は部活を休ませてください」という形にできればいい。</p> <p>□消防団は有事の際、かなり力を発揮する。</p> <p>□消防団は月2回定例で可搬ポンプなどの訓練をやっている。今まで小学校で放水体験はやったが、実際の消防団の訓練に子どもが参加することはなかった。</p>	<p>□災害時や火災の火事場などで活躍できるよう、もう少し本格的な訓練(体験)を日頃からさせてあげたい。</p> <p>□地域の防災訓練以外で、日常的に中学生が防災についてのスキルが学べる機会、トレーニングできるような機会を設けてほしい。</p> <p>□大人に交じって子どもが活躍する訓練経験も大事。「あなたたちがいてくれて助かるよ」と言えば、子どもは楽しんでやるので、そういうことでいいと思う。</p> <p>□小学生、中学生が消防団の日々の訓練に参加するなど、消防団活動を通じて、災害時の対策を知っていくのではないかな。</p> <p>□消防団の訓練に小中学生が参加する試みはいいことだと思う。実際にやらなくても見ることによって勉強になると思う。中学生が来るならば、それなり</p>	<p>小学生 中学生 消防団</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◎北上地区の第4分団は「消防フェア」を行い、地域の自治会長など色々な方が参加している。そういう時に小学生が参加するといひ。他に、長伏小学校区は運動会の時に、消防団の訓練を実演する。</p>	<p>の対応をする。 □消防団の新入団員を募るのは大変なので、中学生の頃から、目に見える形で消防団の活動を教えていくのも必要なことかと思う。将来、その子達が大人になって、地域を守る消防団員になるきっかけになるのではないか。</p>		
⑤水・食糧の備蓄			
<p>●食糧は備蓄があるので問題ない。 ◎山中は3.11の震災時に水を送るポンプが壊れた。 ◇◆飲用水ペットボトル100ケース購入。(三ツ谷) ◆簡易水道がある。ポンプを使わず、落差でタンクに溜まる仕組み。配管が破損しない限り簡易水道は使用可能。(山中) ◆水タンクが4ヶ所ある。1ヶ所のみ耐震化している。大地震がきた場合にもつか不明。山の水は簡易水道として使用している。(笹原) ◆集荷場奥に備蓄場所があり、備蓄品の情報を共有した。(笹原) ◇備蓄食糧は賞味期限がわかるよう工夫。7日分の備蓄を用意し、余裕があれば皆で分け合う。(市の山子ども会) ◆事前に防災意識を高めるため、最低3日分の備蓄例が描かれた絵を各家庭に配布した。(笹原)</p>	<p>●水と電気が問題。(元山中) ◎水を備蓄しておくように留意してほしい。 ◆簡易水道や各地区にタンクが多数あるが、古いので水道管破損が心配。山の水も考えている。 ◇一番の心配は食糧と水。水を購入したい。浄水器など高額なものについては市の補助をお願いしたい。(笹原) ◆現在、アルファ米、水ペットボトル、乾パンの備蓄があるが、一日もつかわらない。 ◎食糧7日分は大変なので3日分用意できればいい。何より水の備蓄が重要。</p>	<p>校区全体 自治会 自治会 市 自治会 校区全体 自治会</p>	<p>⇒◇飲用水ペットボトル100ケース備蓄。 ⇒◆災害時は簡易水道で対応可能。 ⇒◆水タンクが4つあり山の水は簡易水道として使用。 ⇒◆備蓄品の情報共有実施。 ⇒◆3日分の備蓄例を示した絵を各家庭へ配布。</p>
⑥幼・小学校の取組み			
<p>◆新たな取り組みとして、運動場への避難をやめ、校舎または体育館の安全な場所に全児童を避難させた。建物内に避難することで、災害時の天候や保護者の引き取りの遅延に対応可能にした。(坂小) ◇毎月1度、避難訓練実施。2回は小学校と連携し、合同引き取り訓練、水消火器訓練を実施。(坂幼稚園) ●保護者の園児引き取り訓練で、車で迎えに来る人がいる。(坂幼稚園) ◆安全対応マニュアルを作成し保護者に配布。保護者が来られない場合、誰が引き取りに来るかを記入した園児引き取りカードを作成し、確実な引き渡しを実施。(坂幼稚園)</p>	<p>●車を利用しないなど、災害を想定した訓練を行いたい。</p>	<p>小学校 小学校 幼稚園 幼稚園</p>	<p>⇒◆坂小では安全な屋内で子ども達を待機させ、引き渡し訓練実施。 ⇒◆安全対応マニュアルを作成し保護者に配布。</p>
⑦避難所(小学校)の体制整備			
<p>●避難所(小学校)の対策内容と自治防災は直結する。 ●各自治会長と避難所の運営会議実施。教員が学校にいる可能性は4分の1。会議進行はこれから地域の方の比重が大きくなっていく。(坂小) ●災害時、交通網の乱れ等で保護者への児童引渡しはスムーズにいかない場合もある。実際にどの程度の備蓄が必要か調査中。(坂小)</p>	<p>●東北の震災後の生活で実際に困ったことを知りたい。 ●子どもを預かる状況も予想される。学校独自の対策をたて食料等3日分の物資を用意していきたい。 ◆備蓄毛布があるので、親が迎えに来られない子は幼稚園と合同で、校舎の一部屋を使用することも検討したい。</p>	<p>自治会 小学校 小学校 小学校 幼稚園</p>	<p>⇒●避難所の運営会議実施。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇錦田中リーダー研修会で体育館避難を経験した。暑さが厳しく大変だった。</p> <p>◇避難所の図上訓練を実施した。(三ツ谷)</p> <p>◇◆坂地区は防火水槽が多数あり、プロパンガスなので炊き出しも可能。野菜もある。食料、生活、水についてはあまり困らない。トイレもユニボがあり対応可能。非常に力強い。</p> <p>◆各地区が遠いため各公民館や集會場で炊き出し等を行う。被害が甚大な場合のみ、小学校を避難所として使用する。</p> <p>□坂地区の弱みは「校区の範囲が広い」「医療品がない」「寒さ」。例えば、小学生が通学中に大きな事故にあった場合や、国道で車が事故を起こしても、ある程度の医療品や水も用意されていないし、病院やドラッグストアもない。三島病院にどうやって行くのか。土砂災害があった場合なども、子ども達の命をどう守るのか。また、冬場は非常に寒い。体育館に逃げても暖がとれない。電気が来なくなればストーブも焚けないので、電気を使用しない電池式のストーブなどが必要になる。広範囲であることが救出・救助のネックとなり、遅れを取るようになるのではないかと非常に不安。</p>	<p>◎多くの人が避難する避難所生活は、小さい子どもを抱える方には厳しい。幼稚園も避難場所として検討してほしい。</p> <p>◇暑さ対策も重要。避難生活は出来れば町内公民館等を利用したい。(元山中)</p> <p>◇避難所運営について色々勉強・検討しなければいけない。</p> <p>◇医療品、冬場の毛布不足が懸念。(坂小)</p> <p>◆国道1号線上に取り残された車両からの避難者や、ヘリコプター発着場である坂小運動場の運用等について、避難所運営会議で話し合いたい。</p> <p>□「こういう場合はどうするのか」「こういう場合、こういうことが起こるのではないかなど、現実的な想像をして、色々なことをシミュレーションして考えると、この地区の弱点が見えてくる。ぜひ皆さまもそれぞれの地域の特性を踏まえて、想像力を働かせ、そこから、具体的に必要なことを積み上げて頂きたい。</p>	<p>幼稚園</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒◇リーダー研修会で体育館避難を経験。</p> <p>⇒◇災害時、水、食糧、トイレなど対応可能。</p>
⑧災害時の情報伝達			
<p>●震災時は電話が使えないので防災無線を使う事になるが、本当に機能するのか。(山中)</p> <p>◇山中は山の上で陸の孤島になってしまう地域。(山中)</p> <p>●自治会からの連絡方法はどうするべきか。無線が入っても対応できる人がいない、こちらからかけてもつながらないと聞く。(元山中)</p> <p>●消防団で無線の訓練実施。団員はアマチュア無線の資格を所持。ハンディタイプ無線も所持している。団員による避難誘導時に、消防本部を介して市や避難場所へ連絡できる。</p> <p>◆地区の連絡は普段広報を使用。広報が一番注意深く聞いてくれる。広報が使えない場合、他に使用できるものがあれば離れた地域を回らないですむ。(笹原)</p> <p>◇災害時の連絡方法は話し合っていない。色々見直しをしていく。(市の山子ども会・小PTA)</p>	<p>●震災時、連絡がとれなくなることが課題。市で対策を取ってほしい。</p> <p>◇情報収集と情報発信をどのようにするか、具体的、実践的に知りたい。実際に地区と行政で防災訓練を行うことも必要ではないか。</p> <p>◎危機管理課で検討する。</p> <p>◎孤立地域では防災無線を利用する。電話回線が混みあう中で、無線はかなり有効。</p> <p>●防災無線よりも、アマチュア無線や消防無線の方が、市への連絡が取りやすいのではないか。(元山中)</p> <p>●消防団員による行政無線のバックアップができるのではないか。</p> <p>◇各地区長と携帯電話等で連絡しあい、情報収集できるようにしたい。(三ツ谷)</p> <p>◆家族間で災害時の連絡方法を話し合うよう周知していきたい。</p>	<p>市</p> <p>消防団</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□東日本大震災の時に、沼津にいた。携帯は使用できなかったので、家族と連絡がつかず、自分が無事なことを伝えることができなかった。「171」伝言ダイヤルという、情報を伝える方法があるが、大多数の方がやり方を知らないと思う。</p> <p>◆災害が伊豆大島のように土砂災害の場合もある。連絡や避難のタイミングが大変難しい。(笹原)</p> <p>□市山新田の公民館(避難所)は地盤が悪くて、一昨年には地盤沈下し、公民館のかさ上げ工事をしている。公民館が安全かという、そうでもない。</p> <p>□2月の2回の大雪では、市山新田もかなり厳しい状況になった。トラクターやローダーを出し、自分達で除雪をした。他地区では市でローダーを出し除雪したという話なので、「ガンソリン代くらい出してほしい」と要望したが、「出せない」ということだった。少しでも補助金を出して頂けると助かる。</p>	<p>□災害時、各自がどう動くか考えるといい。それが自分の身の安全にもつながるし、「171」の使い方を覚えることで、災害時の対応ができる。学校や勤めに出ているなど、場所によって自分のとる行動が変わる。それを自分なりに考えて、やってみることが大事。</p> <p>◎保護者が防災情報を知り話し合うことが、防災意識の向上につながる。171の伝言ダイヤルを確認しておいて欲しい。</p> <p>◎水害の場合、該当地区へ避難準備の連絡⇒地区で避難体制を整える⇒避難勧告、避難指示。</p> <p>◎山・崖崩れの場合、避難できる体制をつくっておき、危険だと感じたら逃げてもらいたくない。</p> <p>□正しい情報を伝えないといけない。訓練をしてどこが安全か情報をうまく伝えられるようにする必要がある。8月に防災訓練を行うがマンネリ化しているので情報伝達等を考えながらやっていきたい。</p> <p>◎自分たちの地域は自分たちで守ることが原則。</p> <p>◎普段雪が降る地域ではないので、除雪車はない。建設会社に連絡して除雪してもらうことになる。幹線道路は国交省と県と市で対応するが、町内の道路は町内でやってもらうしかないことを理解してほしい。</p>		
<p>2. 地域の連携</p>			
<p>①地域のきずなづくり</p>			
<p>○きずなは普通の生活の中にある。まずは祭り、草刈などの活動を大事に続けていき、そこから地域の運動会、文化祭などへの参加につなげていく。(笹原)</p> <p>□自治会で色々な行事を行うが、参加する方が限られ、毎回同じ方が参加する状況だった。親睦を深めるため、今年役員と相談し、日帰りで東京スカイツリーへ行って来た。夫婦や子ども連れなど、日頃出て来ない方も参加され良かった。色々な行事に参加するきっかけになればいい。(笹原)</p> <p>△自治会長をサラリーマンがやっているが、平日の行事が多く、仕事を休まなければならない日が多すぎる。</p> <p>□例えば地域の行事に「みしまるくん・みしまる子ちゃん」を要請したら、来てもらえるのか。</p>	<p>○笹原のきずなから、坂小学校区のきずなに広げていきたい。</p> <p>△行事を土日に分散すれば自治会長を引き受けてくれる人も増えるのでは。</p> <p>△何でも自治会長が出て行かなければならないという状況を緩和する方策を考えてもらいたい。</p> <p>◎着ぐるみの貸し出しは行なっている。相談してほしい。</p>	<p>自治会</p>	<p>⇒□自治会で役員の親睦を深めるため、日帰り旅行を計画。日頃出て来ない方が参加した。</p>
<p>○運動会は高齢化によって集まりが悪くなり、参加者が年々減っている。(体育振興会)</p> <p>○小子高齢化が急激なので、対応が取れない。(スポーツ推進委員)</p> <p>○地域の高齢化が深刻で、つながりも弱くなっている。(玉沢)</p>	<p>○子どもがいない世帯は、運動会にあまり出てくれない。どうやって参加させていかが課題。</p> <p>○運動会と防災訓練を合わせて開催するなどの工夫が必要。</p> <p>○市でスポーツへの予算を増やしてほしい。</p>	<p>体振会 市</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□今年、39 回目の運動会があるが、子どもの人数が少ないので参加人数が減ってきている。高齢者の「運動会に参加する」という気持ち、また「家から出る」ということが非常に大切なこと。</p> <p>□山中は超高齢化社会になっている。地区の行事もだんだん人が少なくなっている。先日の地区行事には見晴学園から人を招き、盛り上げている。</p> <p>□お年寄りの方にできるだけ行事に参加して頂くことで、身体の様子や、まだしっかり歩いて歩けるなど、様子が分かる。</p>	<p>□外に出ないと足腰が弱り、弱ると出られなくなってしまう。運動会の種目に関して、その辺を考えなくてはいけないと思うが、まだ結論は出ていない。検討中。</p> <p>□どうしても高齢になると外に出なくなる。いかにして外に出させるかが、山中の問題になっている。</p> <p>□各家に行ってお年寄りの様子を尋ねるより、日頃の自然体を見ているとよく分かる。そういう意味でも、地域行事を大事にしていくといい。</p>		
<p>□「山中城祭り」がなくなった。以前は子どもたちとの触れ合いもあり、盛り上がっていた。</p> <p>□「山中城祭り」が終わってしまった代わりに、市では花を植えている。「山中城祭り」では、いつも皆さんが来る前にお経をあげ、それから出陣式という儀式に入っていた。それが無くなるのは寂しいので、「供養祭だけは続けてやろう」ということになった。</p> <p>□供養祭が終わったあと、何をやるか考え、そば打ちの仲間をお願いをして、集まった皆さんにそば打ち体験してもらったり、そばをふるまうなど、去年から新しい行事を始めた。非常に好評で、お年寄りも喜んで来てくれた。そうやって集まることを大事にしたい。</p>	<p>□できれば「山中城祭り」を復活させてほしい。</p> <p>□地域行事を固定観念で考えないで、新しいことにチャレンジしている。行事をもう一回見直すことと、目的をどこにするか、何のために行事をするのか検討することも大事。</p> <p>□「地域の行事を盛り上げること」が「救出・救助」につながる。地域行事には、「高齢者の状態の確認」と、「外に出てくるきっかけ作り」という位置付けがある。普段のお付き合いや行事から地域のつながりを構築していったらどうかという意見が出た。それはこの坂地域ならではのストーリーなのかもしれない。地域の特徴を長所として活用して頂きたい。</p>	自治会	⇒□供養祭後、そば打ち等、新行事を始めた。非常に好評。
②挨拶・声かけの促進			
<p>○坂小は児童が少ないので、1～6年全員が友達になるようにしている。</p> <p>○坂小、錦田中では地域のきずなが強いので、いじめなどの事件は起きていないと思う。(民生委員)</p> <p>◇昔から地域全体で子どもを育てている。きずなが生まれる地域づくりを考えるのは本当にいいこと。(三ツ谷寿楽会)</p> <p>◆三ツ谷では老人会も子ども会も活発な活動をしている。</p> <p>○きずな作りの基本は挨拶だと思う。(台崎)</p> <p>○朝の挨拶運動では、坂地区は子どもの人数が少なく通勤手段も車が多いので、2、3人の子どもにしか会えない状況。(坂小PTA)</p> <p>○坂小学校は名札がないので、名前と顔を一致させるのが難しい。</p>	<p>○普段の授業の中でもきずなを作りたい。(坂小)</p> <p>○子ども達が悪さをしないよう、声をかけてほしい。</p> <p>○震災の影響で近所のつながりが重要視されているので、高齢者から子ども達に人付き合いについて教えていきたい。</p> <p>○これからは自分が率先して声かけを行っていきたい。</p> <p>○子どもに挨拶を教え、コミュニケーションが取れるよう育てていきたい。(坂少年ソフトボールクラブ)</p>	自治会 小学校 老人会 校区全体	

現況	課題	担い手	結果・実績
③坂幼稚園・坂地区のPR			
<p>□他の幼稚園では4才児は15人以下だと編成しないということで、無くなった幼稚園もある。坂幼稚園も園児数は満たないが、地域に幼稚園がないと困るということで、存続させてもらっている。</p> <p>□坂地区は地域の方々を含め、他にはない自然にも恵まれた素敵なおところだが、住んでいると気がつかなくなってしまうということ。外部からは評価されるのだが、住んでいる人は出ていってしまうという話も聞く。</p> <p>□「子どもは地域の宝」とよく地域の方に仰って頂いている。皆がここで幸せに暮らせて、ここは素晴らしいところだと感じられるようにするため、子どもたちが色々な地域行事に参加したり、地域の中で大切に思われる幼稚園を目指してやっている。</p> <p>□子どもが坂幼稚園、坂小学校に通っている。自然環境が豊かで、富士山は見えるし、下もすごくきれいに見えるし、芝生もある。坂地区を評価してもらえることは感謝している。中でも地域の方がクッキングボランティアで参加してくださったり、小学校の農業体験では、たくさんの方に関わって頂いている。</p> <p>□坂幼稚園は少人数なので、一人の子がたくさんのお経験ができ素晴らしいと思う。坂幼稚園が大好きだが、集団生活も大事だと思うので、あまりにも園児数が少ないとこのままいいのか悩んでしまう。</p>	<p>□いつまで存続できるのかという思いもあるが、子どもたちを大切に思っている地域の方々がいるので、もっと子どもが増えてほしいと思う。</p> <p>□「ぜひこういうところで子育てしませんか」「坂地区にはこういう良さがある」など、地域から「子どもを大事にできる町」だと発信してもいいのかもしれない。坂幼稚園のPRにもなる。</p> <p>□より多くの高齢の方が幼稚園や小学校にどんどん入り、それぞれの得意分野を活かし、色々なことを子どもたちに教えて頂けたらと思う。そういったつながりがあれば、地域にこんな方がいるという気付きになる。</p> <p>□地域でもお手伝いして頂いて、もっと坂小・坂幼稚園の特色を出せるのではないのか。例えば、児童クラブなどで長い時間子どもの面倒を見てもらえれば、働いている母親にとっても助かる。坂地区の良さをPRして、できれば下から来てもらえるといい。</p> <p>□坂地区では「子どもは地域の宝」だと多くの方が思っている。この形が理想かもしれない。こういった形を坂地区だけではなく、坂地区の皆さんの力を借りながら、錦田中学校区として、広げていきたい。</p>	<p>幼稚園</p> <p>校区全体</p> <p>幼稚園 小学校 自治会</p>	
④環境美化			
<p>▲林道で不法投棄が多い。農政課が林道の入り口を施錠するというので、多少違うかと思う。やはり同じ人が捨てに来ている。</p> <p>○市からの補助を得て、箱根山麓の草刈を年2回行っている。(笹原)</p> <p>○山中城跡公園で犬を放している人がいて、モラルがひどい。フンの後始末をしない。(環境美化推進委員)</p> <p>○台崎の県道(三ツ谷・谷田線)の交通量が増加しているので、ゴミのポイ捨てが増えている。(台崎)</p>	<p>▲大人がゴミを拾わないと子どもたちも拾わなくなる。ゴミが落ちていたら拾う姿を大人が見せる、そういう意識を持って行動することが、きれいな街をつくっていく第一歩だと思う。</p> <p>▲笹原も不法投棄が多いが、行政で大量に捨てている場所はすぐわかると思う。最初は小規模で許可していても、知らないうちにすごく大きな捨て場所になっている。もっとしっかり管理してもらいたい。</p> <p>○普段接点のない農家とサラリーマンとが交流できるので続けていきたい。</p> <p>○山中城の犬のフン害にも対応していきたい。看板を立てるなどの対策を考えている。</p> <p>○県道が整備されたことで、夜間、通行者がゴミをポイ捨てしていく。対策が必要。</p>	<p>自治会</p> <p>環美推員</p>	<p>⇒○年2回草刈りを実施。普段接点の無い住人の交流の場。</p>